

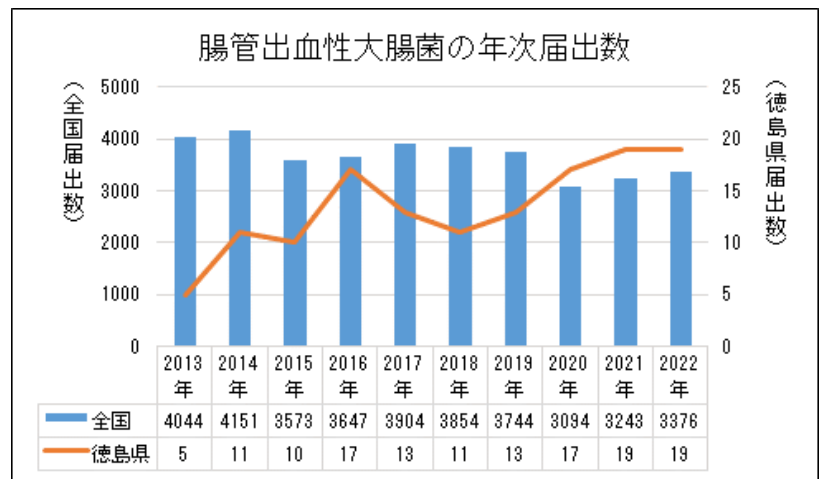


## 腸管出血性大腸菌について

### 腸管出血性大腸菌とは

大腸菌は家畜や人の腸内に存在し、ほとんどのものは無害ですが、いくつかの大腸菌は人に対して病原性があり、これらは病原大腸菌と呼ばれています。

病原大腸菌の中には、毒素を産生し、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群（HUS）を起こす腸管出血性大腸菌と呼ばれるものがあります。腸管出血性大腸菌の代表的なものは「O157」で、そのほかに「O26」や「O111」等が知られています。

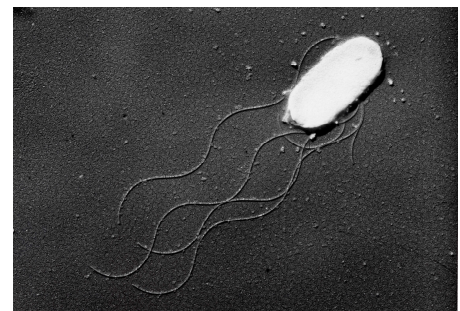


### 感染経路

腸管出血性大腸菌の感染は飲食物を介した経口感染です。菌に汚染された飲食物を摂取したり、患者の糞便に含まれる菌が直接または間接的に口から入ることによって感染します。国内での感染事例では、井戸水、牛レバー刺し、ハンバーグ、牛タタキ、ローストビーフ、サラダ、貝割れ大根、メロンなどが原因食品等と特定あるいは推定されています。

### 感染予防

腸管出血性大腸菌は他の食中毒菌と同様に、加熱や消毒薬によって死滅しますので、通常の食中毒対策により予防することができます。調理の前、食事の前には必ず手を洗いましょう。また、腸管出血性大腸菌は 75℃で1分間以上の加熱で死滅しますので、食肉は中心部まで十分に加熱して食べましょう。



腸管出血性大腸菌  
(東京都健康安全研究センターHPより抜粋)

### これまでの食中毒事例

国内では、焼肉店等の飲食店や、食肉販売業者が提供した食肉を、生や加熱不足で食べて感染する事例が多くなっています。腸管出血性大腸菌に汚染された食品が広域に流通していたために、複数の自治体で患者が発生する事例もみられます。

### 当センターでの取組

腸管出血性大腸菌の菌株が同じかどうかを、遺伝子レベルで調べる分子疫学解析手法の一つに「反復配列多型解析（MLVA 法）」があります。当センターでは、搬入された腸管出血性大腸菌の菌株の中で、「O157」、「O26」、「O111」について MLVA 法による遺伝子型別検査を実施し、さらに国立感染症研究所に菌株を送付し、全国における広域食品由来感染症の早期探知に努めています。

### 参考

- ▽ 厚生労働省 腸管出血性大腸菌 Q&A
- ▽ 国立感染症研究所細菌第一部 MLVA 法解説